

第46期全日本民主医療機関連合会 MIN-IREN

職員育成ニュース No.17

発行:2025年10月16日 /職員育成部事務局(部内資料)



【総会スローガン】

- 平和的生存権・人間の尊厳を守る立場で、国連憲章・国際法に反する暴力・戦争を止めるため行動しよう
- 大軍拡を止め、多様性の尊重・ジェンダー平等といのち第一の政治を実現するために、共同組織とともに、地域から人権・公正の波を起そう
- 70年の歴史を力に、「ケアの倫理」を深め、「2つの柱」の全面実践で、「人権の砦」たる民医連事業所を守り、発展させよう

ケアは「自分ほぐし」の契機に 自他のニーズケアしあい価値観を更新



第5回集約(Vol.1~5)
学習会 累計 16,294 回
参加者 のべ 97,325 人

「ケアの倫理」café 第5回目の集約と感想をありがとうございました。

「ケアの人間観と、自分ほぐし」では、ケアの倫理の視点での「自立」は、自他のニーズをケアしあえる(依存しあえる)関係を生きようと努力すること、関係性をむすび「つながりつつ、自分も大事にすること」、ケア実践は自分本位の発想・ものの見方を解きほぐし、自分のニーズも相手のニーズも大事にしながら、自分自身の価値観や生き方を更新していくことであることが語られました。

また、医師とケア実践に関する感想では、医師不足や過酷な労働実態が医療の質や人権に直結する深刻な課題として共有され、「心温まる医療現場を未来へつなぐために」、それぞれの言葉で未来が語られています。

＜感想から＞

- 知らず知らずの間に自分の考えや感情が固くなり相手を見る視野が狭くなってしまうことがある。だからこそ日常の中で柔らかくほぐす時間や工夫を持つことが結果的により良いケアにつながると思う。
- 依存や支援を「劣ること」とみなす価値観をほぐし、互いにケアし合う関係性を築くことが、個人の成熟と社会の持続可能性を支える鍵だと思った。
- 「全国どこでも安心して働くような仕組みが出来れば」、医療・介護界だけでなく、子育てしながらでも肩身の狭い思いをせず安心して働くような世の中になってほしい。
- 医師不足や長時間労働が深刻。医師の人権を守ることは患者の命と健康を守ることにつながる。

ご案内



学習会 対話で振り返る「ケアの倫理」café

11月14日(金) 9:30~11:30 講師:長久啓太さん

【共催】人権と倫理センター、医療部、介護福祉部、職員育成部、

「ケアの倫理」caféを通し、全国各地で様々な声や変化が生まれました。あらためて上記の各専門部の共催で、学習会を開催することとなりました。(全日本民医連 11月各専門部会 2日目)

「シリーズ『ケアの倫理』を深める」の執筆者である長久啓太さんとの対話で、学びを振り返ります。

民医連職員の方はどなたでも参加できます。録画も予定します。

※申し込み不要

【Zoom】 <https://us02web.zoom.us/j/89348274648?pwd=A0oAnLbgfa6sPkPxNdBgaKG23aRMa4.1>
ミーティング ID: 893 4827 4648 パスコード: 1114



「ケアの倫理」café 5回目集約(Vol.1~5) 取り組みの特徴



2025年10月6日 全日本民医連 職員育成部

- ①「語り合いそのものがケアである」という認識や、ケアを単なる技術や業務にとどまらず、声かけ・気づき・関係性の中に根ざした営みとして捉える視点がひきつづき広がっています。職場環境整備、柔軟な働き方など構造的課題も多く挙げられ、制度や政治への批判的視点も含みつつ、現場から認識を変え、支え合いの文化を育みたいという思いが語られています。ケアは職場・家庭・社会をつなぐ営みであり、誰もがケアしケアされる人という前提の重要性が鮮明になっています。
- ②「自分ほぐし」は、「自分本位の考え方や固定観念にとらわれず、自分と相手のニーズを大事にしながら、価値観や生き方を更新していくこと」「自己責任論について考え直し自立や依存の考え方をあらため、相互にケアしあうことが自分を見つめ直すことにつながっている」などの声が多く寄せられています。イメージが捉えにくいといった声もあります。
- ③「反・暴力という強い倫理」について多くの感想が寄せられています。人々のニーズや痛みへの想像力こそが、戦争や暴力を止める真の抑止力であり、ケアの現場から憲法9条を守り、命の大切さを伝えていくことの重要性が語られています。良いケアの提供には、ケアする人が心身ともに健康で安定していること、良い職場環境、人間関係づくり、ケアする人を支える仕組みの必要性も指摘されています。
- ④「医師とケア実践」に関して、医師不足や過酷な労働実態が医療の質や人権保障に直結する深刻な課題として共有されています。医師自身のケアや生活の尊重が患者の命と健康を守る基盤であり、多職種連携や職場環境の改善が不可欠との認識が広がっています。「自己責任論」を乗り越え、弱さを認め合い、支え合う社会のあり方がケアの実践に重ねられ、経済、診療報酬制度や政策の問題、構造的な改善の必要性が強調され、人間の尊厳を守る医療の未来像が語られています。
- ⑤「ケアの重要性を政治が認識しケアする側も報われる社会であってほしい」など、人員不足、経営困難、賃金の問題に対する政治への不満や怒り、適切な評価と報酬を求める声が、ひきつづき寄せられています。資本主義の枠組みを見直し、ケアの価値を社会全体で再評価することは重要な課題であり、アクションにつながっていることがうかがえます。
- ⑥「家事には対価が払われない」「名もなき家事に感謝の気持ちを伝える認識が必要」など、家父長制や「女らしさ・男らしさ」などのアンコンシャスバイアスによる偏見が残っている日本の政治の変革を求める感想がひきつづき多くあります。家事・育児・介護など家庭の無償労働、低賃金によるケア労働(看護・介護・保育等)が社会を支えているのに正当な評価がされていないことへの指摘が広がっています。
- ⑦「ケアの倫理」caféを通じて「政治への問題意識」が高まっていることがうかがえます。「ケア労働者をリスクペクトする政治を」には多くの共感が寄せられており、医療介護の現場が政治によって歪められ厳しい現実の中でも、ケア労働者が何とか踏みとどまっているということが明らかになっています。
- ⑧「無差別・平等の医療・介護」をめざす民医連綱領に確信が深まっています。一人ひとりの状態や生活、気持ちに寄り添うあること、SDH や共同のいとなみの視点で健康や平和を守る行動に取り組むこと、社会情勢などを学んで声をあげることなど、社会変革への視点が共有されています。

「ケアの倫理」café 各地の取り組みページのご案内

全日本民医連 HP トップ>職員のページ>職員育成部>「ケアの倫理」café 各地の取り組み
パスワードは各県連事務局にお問い合わせください。

